

# 琉球大学学術リポジトリ

大学における教育の質の向上を目指して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 章二 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41205">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41205</a>

# 大学における教育の質の向上を目指して

井上 章二（大学教育センター長）

平成 26 年 4 月 1 日付けで、大学教育センター長を拝命しました井上です。私自身はこれまで共通教育とは直接的な関わりはあまり有りませんでした。全力でセンターの運営にあたりますのでご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

教養部が廃止されて以降、共通教育（教養教育）の位置づけやその実施方法等の改革が各大学で様々に取り組まれてきました。が、いまだに多くの問題が残されていることも事実で、最適解を求めて模索しつづけているというのが現状でしょうか。入学から 4 年間（6 年間）という短い期間、すなわち、学生の卒業時における教育の質保障の観点から考えると、共通教育、専門教育を貫いた一貫した方針の下での教育が、より質の高い学生教育の一つの方向性を示してくれるのではないかと考えられます。

まさにこの教育の質保証を実現するための新しい取組である琉球大学グローバルシティズン・カリキュラム（URGCC: University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum）がスタートして 3 年目を迎えました。URGCC 初年度の入学生は 3 年次となり、平成 27 年度末には卒業を迎えることとなります。全学学士教育プログラム委員会においては平成 25 年度約 1 年間の議論を通じて、URGCC の目標達成度評価方法について各学士教育プログラムへ記述していただきましたが、必ずしも、統一的な方向性に基づく記述とはなっていないのが現状です。これは、すべての学士教育プログラムにおける共通の 7 つの学習教育目標、「自律性」、「社会性」、「地域・国際性」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「問題解決力」、「専門性」のうち、各プログラムの「専門性」の違いによるところが大きいとの意見があります。この URGCC は琉球大学が推し進める主要な教育システムであり、平成 28 年度からスタートする第 3 期中期目標・中期計画も視野に入れた、より効果的で一貫性のある評価方法を確立すべく、本年度も議論を続け、URGCC の推進を図りたいと考えています。評価方法について議論を続ける一方、URGCC による教育効果を実質的に向上させるためには、皆さまに URGCC へのご理解を一層深めていただき、その効果向上のための策を授業等で実践していただくことが不可欠です。

「教育の質保証・向上」のための取組として、具体的に進めてきた URGCC ですが、現在ではさらに、その教育の質保証を達成するため、「教育の質的転換」、具体的には学生の能動的な活動を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）、学生の学修時間の増加、グローバル化に対応した教育環境づくり、教学マネジメントの改善（教学 IR）等が中央教育審議会の答申、教育再生実行会議の提言等に盛り込まれています。大学教育に関して、私たちの予想を遙かに上回るスピードで変革の波が押し寄せているのです。その大波に流されないよう、本学の教育の体幹を鍛えることが喫緊の課題であり、これまで以上に着実、迅速な一步を踏み出していくことが求められているのではないのでしょうか。